

(別紙)

水産業共同利用施設復旧整備事業に係る事後評価報告書(岩手県)

計画内容			事業完了年度	評価年度	評価の結果			
計画年度	番号	施設名			成果目標		現状値の説明	都道府県の評価結果
					目標値	現状値		
H23	1	密漁等監視施設	H24	H30	年間密漁監視日数 240日	年間密漁監視日数 212日	時化により監視日数が若干減少したものの、適切に密漁監視を実施し、概ね目標を達成した。 (達成率 88%)	施設の整備により密漁防止及び漁業者の安全確保体制が強化され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 概ね目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	4	漁船保全修理施設	H24	H30	上下架漁船数 300隻	上下架漁船数 237隻	海況不良等により出漁隻数が減少したため、目標を下回った。 (達成率 79%)	施設の整備により、漁船の保守、修繕体制が強化され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 海況不良等による出漁機会の減少によるものであり、やむを得ないものである。 事業実施主体に対し利用隻数増加に向けて指導していく。
H23	5	漁業作業軽労化機能整備	H24	H30	ワカメ・コンブの荷揚量 3,665トン	ワカメ・コンブの荷揚量 2,731トン	養殖ワカメ、コンブの早期採取により生産量が減少し、目標を下回った。 (達成率 75%)	施設の整備により、漁業作業が軽労化され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 海洋環境の変化に伴う早期採取による荷揚量減少により目標値を下回ったが、今後、荷揚量の増加に向けて指導していく。
H23	6	水産物荷さばき施設	H24	H30	年間水揚量 800トン	年間水揚量 647トン	不漁により水揚量が減少したが、整備目的どおりに施設を利用し、概ね目標を達成した。 (達成率 81%)	施設の整備により集荷機能が強化され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 概ね目標を達成しており、今後とも施設が有効に活用されることが期待される。
H23	7	水産物鮮度保持施設	H24	H30	冷凍品年間在庫量 7,315トン	冷凍品年間在庫量 7,110トン	、年間在庫量が減少したが、前年度繰越在庫が計画より多かったため、概ね目標を達成した。 (達成率 97%)	沿岸の在庫品を保管し、本県水産業の復興に大きく寄与している。 概ね達成しており、今後とも施設が有効に活用されることが期待される。
H23	9	養殖施設	H24	H30	ワカメ・コンブ生産量 2,600トン	ワカメ・コンブの生産量 2,050トン	養殖わかめ、こんぶの早期採取により生産量が減少し、目標を下回った。 (達成率 79%)	施設の整備により、ワカメやコンブの養殖業が再開し、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 海洋環境の変化に伴いワカメ、コンブを早期に採取し、生産量が減少したため、目標値を下回ったが、今後、養殖生産量の増加に向けて指導していく。
H23	10	養殖施設	H24	H30	ワカメ・カキ(むき身)・ホタテ生産量 696トン 殻付きカキ生産量 6,600千粒	ワカメ・カキ(むき身)・ホタテ生産量 446トン 殻付きカキ生産量 2,875千粒	ワカメ・カキ(むき身)については、生産者の減少、ホタテは種苗の大量へい死により、生産量が減少し、目標を下回った。 (達成率 64%) 殻付きカキについては、身入りの悪化と産地間競争による注文数の減少により、目標を下回った。 (達成率 44%)	施設の整備により、ワカメ、カキ、ホタテの養殖業が再開し、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 震災後の生産者の減少や海洋環境の変化等に伴う生産量の減少により、今回、目標値を下回ったが、今後、養殖生産量の増加に向けて指導していく。

(別紙)

水産業共同利用施設復旧整備事業に係る事後評価報告書(岩手県)

計画内容			事業完了年度	評価年度	評価の結果			
計画年度	番号	施設名			成果目標		現状値の説明	都道府県の評価結果
					目標値	現状値		
H23	12	養殖施設	H24	H30	ワカメ生産量 531トン ホタテ生産量 614トン カキ生産量 66トン ホヤ生産量 102トン	ワカメ生産量 530トン ホタテ生産量 229トン カキ生産量 22トン ホヤ生産量 286トン	ワカメ、ホヤでは目標を達成したが、ホタテはへい死等による生産量の減少で目標値を下回った。カキは一部ホヤへ切り替えたため生産量が減少し、目標を下回った。 ワカメ生産量(達成率 100%) ホタテ生産量(達成率 37%) カキ生産量(達成率 33%) ホヤ生産量(達成率 280%)	施設の整備により各種養殖業が再開し、地域の水産業の復興に大きく寄与している。目標値を下回っている養殖種については、今後、養殖生産量の増加に向けて指導していく。
H23	13	種苗生産・採苗施設	H24	H30	コンブ種苗生産量 100,200m	コンブ種苗生産量 72,000m	養殖生産者数の減少により、コンブ種苗の配布申し込み量が少なかったため、目標を下回った。 (達成率 72%)	施設の再開により、コンブの養殖業が再開し、地域の水産業の復興に大きく寄与している。養殖生産者数の減少に伴う種苗生産量の減少であり、やむを得ないものである。事業実施主体に対し、コンブ養殖への参入者の促進・規模拡大など、種苗生産量の増加に向けて指導していく。
H23	14	生産物一次処理施設	H24	H30	5年間の総便益額 173,878,505円	5年間の総便益額 211,047,826円	生産量、生産額とも順調に推移し、目標を大きく上回った。 (達成率 121%)	施設の整備により、一次加工体制が強化され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	15	生産物一次処理施設	H24	H30	5年間の総便益額 227,183,096円	5年間の総便益額 233,924,615円	すきコンブ加工品の販売収益は概ね計画通りであった。灯油から重油への変更に伴う経費節減は、重油価格の高騰により計画通りの効果が得られなかったものの、目標を上回った。 (達成率 103%)	施設の整備により、一次加工体制が強化され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	16	生産物一次処理施設	H24	H30	すき昆布生産枚数 245,500枚	すき昆布生産枚数 108,900枚	施設利用者の減少及び大雨により河川水が大量に養殖漁場に流入したことからコンブの生産量が減少し、目標を大きく下回った。 (達成率 44%)	施設の整備により、一次加工体制が強化され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。利用者の減少及び自然災害に伴う生産量の減少により目標を下回ったが、今後、生産量の回復に向けて指導していく。
H23	17	ふ化施設	H24	H30	サケ稚魚生産尾数 6,000千尾 水槽清掃時間 1時間/日	サケ稚魚生産尾数 6,000千尾 水槽清掃時間 1時間/日	計画的な実施により目標を達成した。 (達成率 尾数 100%、時間 100%)	施設の整備により、サケ放流体制が整い、地域の水産業の復興に大きく寄与している。目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	18	ふ化施設	H24	H30	サケ稚魚生産尾数 44,800 千尾 水槽清掃時間 1時間/日	サケ稚魚生産尾数 44,800 千尾 水槽清掃時間 1時間/日	計画的な種苗生産の実施により目標を達成した。 (達成率 尾数 100%、時間 100%)	施設の整備により、サケ放流体制が整い、地域の水産業の復興に大きく寄与している。目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	19	ふ化施設	H24	H30	サケ稚魚放流尾数 15,000 千尾	サケ稚魚放流尾数 11,640 千尾	サケ親魚の回帰尾数が少なく、種卵が十分確保できなかったため、目標を下回った。 (達成率 78%)	サケのふ化放流体制が強化され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。種卵不足により放流尾数が減少し、目標を下回ったことから、今後、海産親魚の活用等による計画尾数の生産・放流に向けて指導していく。

(別紙)

水産業共同利用施設復旧整備事業に係る事後評価報告書(岩手県)

計画内容			事業 完了 年度	評価 年度	評価の結果			
計画 年度	番号	施設名			成果目標		現状値の説明	都道府県の 評価結果
					目標値	現状値		
H23	20	ふ化施設	H24	H30	サケ稚魚放流尾数 5,300千尾	サケ稚魚放流尾数 5,300千尾	計画通りサケ稚魚を生産・放流し、目標を達成した。 (達成率 100%)	サケのふ化放流体制が強化され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	21	海中飼育施設	H24	H30	サケ稚魚海中飼育 放流尾数 1,600千尾	サケ稚魚海中飼育 放流尾数 1,600千尾	計画的なサケ稚魚海中飼育放流の実施により目標を達成した。 (達成率 100%)	施設の整備により、サケ放流体制が整い、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	22	海中飼育施設	H24	H30	サケ稚魚海中飼育 放流尾数 2,000千尾	サケ稚魚海中飼育 放流尾数 2,000千尾	計画的なサケ稚魚海中飼育放流の実施により目標を達成した。 (達成率 100%)	施設の整備により、サケ放流体制が整い、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	23	ふ化施設	H24	H30	サケ稚魚放流尾数 15,000 千尾	サケ稚魚放流尾数 13,000 千尾	サケ親魚の回帰尾数が少なく、種卵が十分確保できなかったが、計画に対し8割以上の稚魚を生産・放流し、概ね目標を達成できた。 (達成率 87%)	サケのふ化放流体制が強化され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 種卵不足により放流尾数が減少し目標をやや下回ったが、概ね達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	26	作業保管施設	H24	H30	年間利用日数 37日	年間利用日数 74日	ウニ、アワビの採介藻漁業等の作業・保管に使用し、目標を大きく上回った。 (達成率200%)	施設の整備により採介藻漁業等の作業効率が向上し、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	27	作業保管施設	H24	H30	年間利用日数 24日	年間利用日数 45日	ウニ、アワビの採介藻漁業等の作業・保管に使用し、目標を大きく上回った。 (達成率188%)	施設の整備により採介藻漁業等の作業効率が向上し、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	28	水産物荷さばき施設	H24	H30	年間利用日数 22日	年間利用日数 34日	ウニ、アワビの採介藻漁業等の作業・集出荷に使用し、目標を大きく上回った。 (達成率 155%)	施設の整備により集荷機能が強化され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	29	作業保管施設	H24	H30	5年間の総便益額 6,800千円	5年間の総便益額 1,199千円	天然コンブの不漁により、目標を大きく下回った。 (達成率18%)	施設の整備により採介藻漁業等の作業効率が向上し、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 今回、天然コンブの不漁により目標を大きく下回ったものであり、天然資源は年変動が生じやすいものであることから、やむを得ないものと判断する。
H23	30	漁船保全修理施設	H24	H30	年間利用日数 160日	年間利用日数 200日	刺網・かご・採介藻漁業等に從事する漁船の保全に使用し、目標を大きく上回った。 (達成率 125%)	施設の整備により漁船の保守、修繕体制が強化され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。

(別紙)

水産業共同利用施設復旧整備事業に係る事後評価報告書(岩手県)

計画内容			事業 完了 年度	評価 年度	評価の結果			
計画 年度	番号	施設名			成果目標		現状値の説明	都道府県の 評価結果
					目標値	現状値		
H23	31	漁船保全修理施設	H24	H30	年間利用日数 164日	年間利用日数 206日	刺網・かご・採介藻漁業等に従事する漁船の保全に使用し、目標を大きく上回った。 (達成率 126%)	施設の整備により漁船の保守、修繕体制が強化され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	32	水産物蓄養施設	H24	H30	年間活ホタテ出荷量 56トン	年間活ホタテ出荷量 53トン	時化により養殖ホタテの出荷量が若干減少したが、計画に対し9割程度の出荷実績となり、概ね目標を達成した。 (達成率 95%)	施設の整備により流通体制が強化され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 時化による出荷量の減少により目標値をやや下回ったが、概ね目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	33	水産物鮮度保持施設	H24	H30	5年間の総便益額 42,300 千円	5年間の総便益額 29,306 千円	秋サケ、サンマ等の不漁に伴い、氷の使用量が減少し目標値を下回った。 (達成率 69%)	施設の整備により、水産物の鮮度保持機能が強化され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 秋サケ及びサンマ等の不漁により氷の販売が減少し、目標を下回ったもので、やむを得ないものと判断する。
H23	34	特認事業(漁労等作業管理休養施設)	H24	H30	年間延べ利用人数 23,000 人	年間延べ利用人数 11,835 人	担い手不足による定置従業員数の減少等により利用人数が減少し、目標を下回った。 (達成率 51%)	施設の整備により、定置漁業従事者の労働環境が向上し、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 定置従業員の減少により目標値を下回ったが、今後、乗組員の確保等による利用率向上に向けて指導していく。
H23	43	海水処理施設 (綾里漁港)	H24	H30	—	—	清浄海水供給施設の復旧により震災前と同様に利用が図られた。	水産物の流通・加工に係る衛生管理の強化が図られ、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	45	養殖施設	H24	H30	ワカメ生産量 150トン	ワカメ生産量 291トン	養殖ワカメの生産が順調に推移し、目標を大きく上回った。 (達成率194%)	施設の整備によりワカメ養殖業が再開し、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	48	種苗生産・採苗施設	H24	H30	コンブ種苗生産量 42,000 m	コンブ種苗生産量 38,000 m	養殖コンブ種苗の生産量は順調に回復しており、概ね計画通りの種苗生産実績となったことから、概ね目標を達成した。 (達成率 90%)	施設の整備によりコンブの種苗生産が再開し、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 コンブ種苗の需要が若干減少したものの、概ね目標を達成しており、今後とも施設が有効に活用されることが期待される。
H23	50	生産物一次処理施設	H24	H30	5年間の総便益額 395,323,292円	5年間の総便益額 975,333,906円	養殖わかめ、こんぶ半製品・製品の販売が順調であったことにより、目標を大きく上回った。 (達成率 247%)	施設の整備により、一次加工体制が強化され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。

(別紙)

水産業共同利用施設復旧整備事業に係る事後評価報告書(岩手県)

計画内容			事業 完了 年度	評価 年度	評価の結果			
計画 年度	番号	施設名			成果目標		現状値の説明	都道府県の 評価結果
					目標値	現状値		
H23	54	陸上種苗生産施設	H24	H30	アワビ種苗 100万個 ウニ種苗 250万個 マナマコ種苗 20万個	アワビ種苗 0万個 ウニ種苗 247万個 マナマコ種苗 48万個	県内漁協からのアワビ種苗の種苗の供給希望数の減少により、評価年度においては、大船渡事業所(No55、164の施設)のみでの種苗生産を行ったため、計画を下回った。他の種苗については、計画どおり生産し、概ね目標を達成した。 アワビ種苗(達成率 0%) ウニ種苗(達成率 99%) マナマコ種苗(達成率 240%) 全種平均(達成率 113%)	各種放流用種苗の生産が再開により放流事業が再開し、資源の早期回復に寄与している。 生産規模は概ね計画通りであり、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	55	陸上種苗生産施設	H24	H30	アワビ種苗 400万個 ヒラメ種苗 110万尾 ホシガレイ種苗 10万個 アユ 3.0トン(0.5~0.9g/尾)	—	H24に設計のみ実施。本体工事はH25に実施しており、事後評価はH31に実施する。	—
H23	57	漁港環境施設 (久喜漁港)	H24	H30	—	—	便所の復旧により震災前と同様に利用が図られた。	漁業者の就労環境が向上し、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	58	漁港環境施設 (野田漁港)	H24	H30	—	—	便所等の復旧により震災前と同様に利用が図られた。	漁業者の就労環境が向上し、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	59	漁具洗浄施設 (野田漁港)	H24	H30	—	—	No259で評価	No259で評価
H23	60	漁港環境施設 (音部漁港)	H24	H30	—	—	No367で評価(R4予定)	No367で評価(R4予定)
H23	61	漁港環境施設 (重茂漁港)	H24	H30	—	—	No328で評価(R3)	No328で評価(R3)
H23	62	漁港環境施設 (山田漁港)	H24	H30	—	—	No329で評価(R3)	No329で評価(R3)
H23	63	漁港環境施設 (船越漁港)	H24	H30	—	—	No330で評価(R3)	No330で評価(R3)
H23	65	水産物荷さばき施設	H24	H30	年間利用日数 130日	年間利用日数 117日	ウニ、天然ワカメ、コンブ等の不漁により操業回数がやや減少したが、計画通りに施設を利用し、概ね目標を達成した。 (達成率 90%)	施設の整備により集荷機能が強化され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 不漁のため操業回数が減少し、利用日数は目標をやや下回ったものの、概ね達成されており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	66	特認事業 (漁労等作業管理休養施設)	H24	H30	年間利用日数 220日	年間利用日数 266日	台風により被害を受けた漁具の修理のため利用日数が増加し、目標を大きく上回った。 (達成率 121%)	施設の整備により、定置網漁業の作業効率が向上し、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。

(別紙)

水産業共同利用施設復旧整備事業に係る事後評価報告書(岩手県)

計画内容			事業 完了 年度	評価 年度	評価の結果			
計画 年度	番号	施設名			成果目標		現状値の説明	都道府県の 評価結果
					目標値	現状値		
H23	67	水産物荷さばき施設	H24	H30	年間利用日数 36日	年間利用日数 143日	ウニ、アワビの採介藻漁業等の作業・集出荷に使用し、目標を大きく上回った。 (達成率 397%)	施設の整備により、集荷機能が強化され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	68	密漁等監視施設	H24	H30	年間密漁監視日数 240日	年間密漁監視日数 230日	時化により監視日数が減少したが、計画通りに密漁監視を行い、概ね目標を達成した。 (達成率 96%)	施設の整備により、密漁防止及び漁業者の安全確保体制が強化され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 時化による監視日数がやや減少したものの、概ね目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	69	密漁等監視施設	H24	H30	年間密漁監視日数 240日	年間密漁監視日数 183日	時化により監視日数が減少し、目標を下回った。 (達成率 76%)	施設の整備により、密漁防止及び漁業者の安全確保体制が強化され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 時化による監視日数の減少によるもので、やむを得ないものである。 事業実施主体に対し、監視日数増加に向けて指導していく。
H23	70	密漁等監視施設	H24	H30	年間密漁監視日数 215日	年間密漁監視日数 121日	時化により監視日数が減少し、目標を下回った。 (達成率 56%)	施設の整備により、密漁防止及び漁業者の安全確保体制が強化され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 時化による監視日数の減少によるもので、やむを得ないものである。 事業実施主体に対し、監視日数増加に向けて指導していく。
H23	71	作業保管施設	H24	H30	年間利用日数 47日	年間利用日数 58日	採介藻漁業等の保管・集出荷に使用し、目標値を上回った。 (達成率 123%)	施設の整備により、採介藻漁業等の作業効率が向上し、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	72	水産物荷さばき施設	H24	H30	年間利用日数 41日	年間利用日数 58日	ウニ、アワビ、干しコンブの採介藻漁業等の作業・集出荷に使用し、目標を上回った。 (達成率 141%)	施設の整備により、集荷機能が強化され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	73	水産物荷さばき施設	H24	H30	年間利用日数 122日	年間利用日数 131日	ウニ、アワビの採介藻漁業等の作業・集出荷に使用し、目標を上回った。 (達成率 107%)	施設の整備により、集荷機能が強化され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	74	水産物荷さばき施設	H24	H30	年間利用日数 41日	年間利用日数 279日	ウニ、アワビの採介藻漁業等の作業・集出荷に使用し、目標を大きく上回った。 (達成率 680%)	施設の整備により、集荷機能が強化され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。

(別紙)

水産業共同利用施設復旧整備事業に係る事後評価報告書(岩手県)

計画内容			事業 完了 年度	評価 年度	評価の結果			
計画 年度	番号	施設名			成果目標		現状値の説明	都道府県の 評価結果
					目標値	現状値		
H23	75	特認事業(漁村センター)	H24	H30	年間利用日数 47日	年間利用日数 53日	漁業者の座談会、説明会等に使用し、目標を上回った。 (達成率 113%)	施設の整備により、漁業秩序の維持や資源管理等の調整機能が強化され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	76	作業保管施設	H24	H30	年間利用日数 77日	年間利用日数 78日	採介藻漁業の資材及び漁具の保管に使用し、目標を上回った。 (達成率 101%)	施設の整備により採介藻漁業等の作業効率が向上し、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	77	作業保管施設	H24	H30	年間利用日数 96日	年間利用日数 25日	天然コンブの不漁により利用日数が減少し、目標を大きく下回った。 (達成率 26%)	施設の整備により採介藻漁業等の作業効率が向上し、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 今回、天然コンブの不漁により目標を大きく下回ったものであり、天然資源は年変動が生じやすいものであることから、やむを得ないものと判断する。
H23	78	作業保管施設	H24	H30	年間利用日数 200日	年間利用日数 365日	定置網の資材等の保管に使用し、目標を大きく上回った。 (達成率 183%)	施設の整備により、定置網漁業等の作業効率が向上し、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	79	燃油補給施設	H24	H30	年間利用日数 200日	年間利用日数 291日	漁船の給油に使用し、目標を大きく上回った。 (達成率 146%)	施設に整備により、漁船への給油能力が強化され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	80	水産物鮮度保持施設	H24	H30	9～11月における 氷販売量 2,230トン	9～11月における 氷販売量 1,554トン	スルメイカ及び秋サケの不漁にともない氷の使用量が減少し、目標を下回った。 (達成率 70%)	施設の整備により、水産物の鮮度保持機能が強化され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 スルメイカ及び秋サケの不漁により氷の販売量が減少したことによるものであり、やむを得ないものである。 事業実施主体に対し、販売量増加に向けて指導していく。
H23	82	水産物加工処理施設	H24	H30	年間加工処理数量 382トン	年間加工処理数量 140トン	スルメイカ、秋サケ及びサバ等の原魚の不漁・高騰により仕入れが減り、目標を大きく下回った。 (達成率 37%)	施設の整備により水産加工体制が強化され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 スルメイカ、秋サケ及びサバ等の不漁・高騰による仕入れ量の減少によるものであり、やむを得ないものである。 今後、事業実施主体に対し、処理数量増加に向けて指導していく。
H23	84	作業保管施設	H24	H30	年間利用日数 周年	年間利用日数 周年	計画的な実施により目標を達成した。 (達成率 100%)	施設の整備により、養殖漁業等の作業効率が向上し、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。

(別紙)

水産業共同利用施設復旧整備事業に係る事後評価報告書(岩手県)

計画内容			事業 完了 年度	評価 年度	評価の結果			
計画 年度	番 号	施設名			成果目標		現状値の説明	都道府県の 評価結果
					目標値	現状値		
H23	85	作業保管施設	H24	H30	年間水揚量 780トン	年間水揚量 500トン	秋サケの不漁により、水揚量が減少したため、目標を下回った。 (達成率 64%)	施設の整備により、定置網漁業等の作業効率が向上し、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 平成29年度は秋サケの不漁により目標値を下回ったもので、やむを得ないものである。 今後、水揚量増加に向けて指導していく。
H23	86	作業保管施設	H24	H30	年間水揚量 780トン	年間水揚量 500トン	秋サケの不漁により、水揚量が減少したため、目標を下回った。 (達成率 64%)	施設の整備により、定置網漁業等の作業効率が向上し、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 平成29年度は秋サケの不漁により目標値を下回ったもので、やむを得ないものである。 今後、水揚量増加に向けて指導していく。
H23	87	漁業作業軽労化機能整備	H24	H30	年間利用日数 周年	年間利用日数 周年	計画的に施設を利用し、目標を達成した。 (達成率 100%)	施設の整備により、漁業作業が軽労化され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	88	水産物鮮度保持施設	H24	H30	年間氷販売量 2,400トン	年間氷販売量 1,679トン	秋サケの不漁にともない氷の使用量が減少し、目標を下回った。 (達成率 70%)	施設の整備により、水産物の鮮度保持機能が強化され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 秋サケの不漁により氷の販売量が減少し、目標値を下回ったもので、やむを得ないものである。 今後、事業実施主体に対し、販売量増加に向けて指導していく。
H23	90	作業保管施設	H24	H30	漁具収容ヶ統数 3ヶ統	漁具収容ヶ統数 3ヶ統	計画的な実施により目標を達成した。 (達成率 100%)	作業保管施設の整備により、漁具の保全が図られ、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	92	特認事業 (漁労等作業管理休養施設)	H24	H30	漁具収容ヶ統数 3ヶ統	漁具収容ヶ統数 3ヶ統	計画的な実施により目標値を達成した。 (達成率 100%)	施設の整備により、定置漁業従事者の労働環境及び作業環境が向上し、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	94	水産物鮮度保持施設	H24	H30	施設利用人数 44人	施設利用人数 40人	組合員数の減少により、施設利用者が若干減少したが、計画に沿った施設利用がされており、概ね目標を達成した。 (達成率 91%)	施設の整備により、餌料の保管環境及び漁獲物の鮮度保持環境が強化され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 担い手不足による利用者数の減少であり、やむを得ないものである。 概ね目標が達成されており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。

(別紙)

水産業共同利用施設復旧整備事業に係る事後評価報告書(岩手県)

計画内容			事業 完了 年度	評価 年度	評価の結果			
計画 年度	番号	施設名			成果目標		現状値の説明	都道府県の 評価結果
					目標値	現状値		
H23	97	水産物鮮度保持施設	H24	H30	5年間の総便益額 262,400千円	5年間の総便益額 1,215,039千円	養殖わかめ、こんぶ半製品・製品の保管が順調に行われ、目標を大きく上回った。 (達成率 463%)	施設の整備により、養殖ワカメ、コンブ製品の保管環境が整い、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	98	作業保管施設	H24	H30	5年間の総便益額 114,700千円	5年間の総便益額 114,251千円	目標値を若干下回っているものの、生産量は順調に回復しており、概ね目標達成できた。 (達成率99.6%)	施設の整備により、作業場が確保され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	99	作業保管施設	H24	H30	5年間の総便益額 703,000千円	5年間の総便益額 613,220千円	あわびの水揚げ数量が減少したが、単価高や海藻類等の販売等により、概ね目標を達成した。 (達成率 87%)	施設の整備により、作業場が確保され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 概ね目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	108	作業保管施設	H24	H30	利用人数 182人	利用人数 132人	震災直後よりも組合員数が減少し、利用者が少なくなり、目標を下回った。 (達成率 73%)	施設の整備により、作業場が確保され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 組合員数の減少により利用人数が減少し、目標値を下回っていることから、今後、利用人数増加に向けて指導していく。
H23	109	漁船保全修理施設	H24	H30	利用人数 378人	利用人数 580人	震災後、漁業の安定と地元帰還者の増加とともに利用率が向上し目標を大きく上回った。 (達成率 153%)	漁船の保守、修繕体制が強化され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	110	特認事業(漁労等作業管理休養施設)	H24	H30	収容ヶ統数 3ヶ統	収容ヶ統数 4ヶ統	震災前の自営定置4ヶ統すべて復旧したことにより、目標値を大きく上回った。 (達成率 133%)	施設の整備により、定置漁具の保管場所及び乗組員の休憩場所が確保され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	111	燃油補給施設	H24	H30	利用人数 288人	利用人数 283人	概ね計画通りに利用されており、概ね目標を達成した。 (達成率 98%)	漁船への燃油補給体制が強化され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 概ね目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	112	漁業作業軽労化機能整備	H24	H30	利用人数 507人	利用人数 1,125人	養殖生産物等の取扱量の増加にともない、作業量が増えて目標を大きく上回った。 (達成率 222%)	施設の整備により、養殖生産物等の陸揚げ作業が軽減され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	113	漁船保全修理施設	H24	H30	利用人数 394人(150隻)	利用人数 53人(90隻)	組合員の減少により、利用人数は目標を大きく下回った。(達成率 13%) なお、目標値の394人は、漁船の有無に関係なく地区正組合員の人数としたものであり、利用隻数で見ると達成率は60%となる。	漁船の保守、修繕体制が強化され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標値を下回っているが、震災後に新たに整備した漁船が多く、保全修理のための上下架の機会が少なかったことが要因と思われる。 今後、利用率の増加に向けて指導していく。

(別紙)

水産業共同利用施設復旧整備事業に係る事後評価報告書(岩手県)

計画内容			事業 完了 年度	評価 年度	評価の結果			
計画 年度	番号	施設名			成果目標		現状値の説明	都道府県の 評価結果
					目標値	現状値		
H23	116	水産物鮮度保持施設	H24	H30	利用組合員数 26	利用組合員数 24	組合員数の減少により目標値には届かなかったが、概ね目標を達成した。 (達成率 92%)	施設の整備により、加工原料の保管機能が強化され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 組合員数の減少により利用者が減少したものの、概ね目標は達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	117	水産物荷さばき施設	H24	H30	年間利用日数 9日	年間利用日数 11日	海況が良く開口回数が増加したため利用日数が増加し目標を上回った。 (達成率 122%)	集荷機能が強化され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	120	作業保管施設	H24	H30	収容ヶ統数 2ヶ統	収容ヶ統数 2ヶ統	計画的な利用により目標を達成した。 (達成率 100%)	施設の整備により定置漁具の劣化防止、作業の効率化が図られ、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	121	養殖施設	H24	H30	ワカメ・ホタテの生産量 70 トン	ワカメ・ホタテの生産量 60 トン	休業中の生産者がいるため、目標値を若干下回ったが、生産が順調に推移し、計画の8割以上の生産・出荷がなされ、概ね目標を達成した。 (達成率 86%)	施設の整備により、ワカメやホタテ等養殖業が再開し地域の水産業の復興に大きく寄与している。 休業者の分生産量が減少したものの、概ね目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	122	養殖施設	H24	H30	ワカメ・コンブの生産量 85 トン	ワカメ・コンブの生産量 282トン	養殖コンブの生産量は順調に回復しており、目標を大きく上回った。 (達成率 332%)	施設の整備により、コンブ等養殖業が再開し地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	123	養殖施設	H24	H30	ホタテ・カキ生産量 59トン	ホタテ・カキ生産量 47.2トン (ホタテ 39.7トン、カキ 7.5 トン)	計画値には届かなかったものの、ホタテ・カキ養殖が順調に取り組み、概ね目標を達成した。(達成率 80%)	施設の整備により各種養殖業が再開し、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 概ね目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	124	養殖施設	H24	H30	ワカメ・コンブ・ホヤ生産量 102トン カキ生産量 252千個	ワカメ・コンブ・ホヤ生産量 85.0トン (ワカメ 19.4トン、コンブ 1.6 トン、ホヤ 64.0トン) カキ生産量 219.8千個	計画値には届かなかったものの、ワカメ等養殖が順調に取り組み、概ね目標を達成した。 ワカメ・コンブ・ホヤ生産量 (達成率 83%) カキ生産量 (達成率 87%)	施設の整備により各種養殖業が再開し、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 概ね目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。

(別紙)

水産業共同利用施設復旧整備事業に係る事後評価報告書(岩手県)

計画内容			事業 完了 年度	評価 年度	評価の結果			
計画 年度	番号	施設名			成果目標		現状値の説明	都道府県の 評価結果
					目標値	現状値		
H23	125	養殖施設	H24	H30	ワカメ・ホタテ生産量 56トン	ワカメ・ホタテ生産量 105トン	ワカメ・ホタテの生産量が震災後順調に回復し、目標を大きく上回った。 (達成率 188%)	施設の整備により各種養殖業が再開し、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	126	養殖施設	H24	H30	ワカメ生産量 64トン ホタテ生産量 117トン コンブ生産量 7トン ホヤ生産量 35トン カキ生産量 38.5千個	ワカメ生産量 258トン ホタテ生産量 166トン コンブ生産量 4トン ホヤ生産量 0トン カキ生産量 25千個	全体的に目標値を上回った。 ワカメ生産量 (達成率 403%) ホタテ生産量 (達成率 142%) コンブ生産量 (達成率 57%) ホヤ生産量 (達成率 0%) カキ生産量 (達成率 65%) 全種平均 (達成率 133%) コンブ及びカキは生産者の減少、ホヤは養殖期間中の種苗のへい死により、生産量が減少したことから目標を下回った。 今後は目標値を下回る養殖種の生産量増大に努めていく。	施設の整備により各種養殖業が再開し、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標値を下回っている養殖種については、今後、生産量増加に向けて指導していく。
H23	127	養殖施設	H24	H30	ワカメ・ホタテ・カキ・ホヤ 生産量 67トン	ワカメ・ホタテ・カキ・ホヤ 生産量 237.2トン	計画通りの実施により目標を大きく上回った。 (達成率 354%)	養殖施設の整備により各種養殖業が再開し、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	128	養殖施設	H24	H30	ホタテ・カキ・ホヤ生産量 25トン	ホタテ・カキ・ホヤ生産量 35.7トン	計画通りの実施により目標を大きく上回った。 (達成率 143%)	養殖施設の整備により各種養殖業が再開し、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H23	132	ふ化施設	H24	H30	サケ稚魚放流尾数 15,500 千尾	サケ稚魚放流尾数 15,132 千尾	親魚の回帰尾数が少なく、種卵が確保できなかったが、概ね目標を達成した。 (達成率 98%)	サケのふ化放流体制が強化され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 種卵不足により放流尾数が減少したものの、概ね目標を達成しており、施設が有効に活用されることが期待される。
H23	133	ふ化施設	H24	H30	サケ発眼卵生産量 20,000 千粒 (ふ化槽40台分) サケ稚魚生産尾数 28,400 千尾	サケ発眼卵生産量 24,056 千粒 サケ稚魚生産尾数 29,176 千尾	計画的な採卵、飼育により、発眼卵生産量、稚魚生産尾数ともに目標を上回った。 (達成率 発眼卵120%、稚魚103%)	ふ化施設の整備により、サケ放流体制が整い、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。

(別紙)

水産業共同利用施設復旧整備事業に係る事後評価報告書(岩手県)

計画内容			事業完了年度	評価年度	評価の結果			
計画年度	番号	施設名			成果目標		現状値の説明	都道府県の評価結果
					目標値	現状値		
H23	134	ふ化施設	H24	H30	サケ稚魚放流尾数 2,500千尾 水槽清掃時間 2時間/日	サケ稚魚放流尾数 2,350千尾 水槽清掃時間 2時間/日	親魚の回帰尾数が少なく、種卵が確保できなかったが、計画の9割以上の稚魚を生産できたことから、放流尾数は概ね目標を達成した。 (達成率 94%) 水槽清掃時間は、計画的な実施により目標を達成した。 (達成率 100%)	ふ化施設の整備により、サケ放流体制が整い、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 種卵不足により放流尾数が減少したものの、概ね目標を達成しており、施設が有効に活用されることが期待される。
H24	140	作業保管施設	H24	H30	コンブ生産量 6.2トン コンブ生産額 6,747千円 漁具保管日数 292日	コンブ生産量 1.5トン コンブ生産額 2,915千円 漁具保管日数 365日	天然コンブの不漁により、生産量及び生産額は目標を大きく下回ったが、漁具保管日数は目標を上回った。 (達成率 生産量24%、生産額43%、保管日数125%)	採介藻漁業等の作業効率が向上し、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 天然コンブの不漁によるものであり、やむを得ないものである。 事業実施主体に対し、生産量及び生産額増加に向けて指導していく。
H24	141	作業保管施設	H24	H30	定置水揚量 1,482トン 年間保管日数 329日	定置水揚量 4,448.8トン 年間保管日数 365日	イワシ等の漁獲量が増加し、目標を大きく上回った。 (達成率 水揚量300%、保管日数111%)	施設の整備により、定置網漁業等の作業効率が向上し、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H24	142	作業保管施設	H24	H30	利用者1戸あたりの年間漁獲量 16.9トン 年間保管日数 347日	利用者1戸あたりの年間漁獲量 19.5トン 年間保管日数 365日	漁具の保管・製作・修理等に使用し、目標を上回った。 (達成率 漁獲量115%、保管日数105%)	施設の整備により、刺し網、かご漁業等の作業効率が向上し、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H24	144	水産物荷さばき施設	H24	H30	ワカメ・コンブ取扱数量 220トン	ワカメ・コンブ取扱数量 276トン	順調に生産量が回復し、目標を大きく上回った。(達成率 125%)	ワカメ・コンブの集荷場所が確保され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H24	145	漁業作業軽労化機能整備	H24	H30	アワビ・ウニ取扱数量 19トン	アワビ・ウニ取扱数量 13トン	近年のアワビ・ウニの不漁により、目標を下回った。 (達成率 68%)	施設の整備により、漁獲物等の陸揚げ作業が軽減され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 アワビ・ウニの不漁による取扱量の減少で目標値を下回ったが、今後、取扱数量増加に向けて指導していく。
H24	146	漁船保全修理施設	H24	H30	延べ上架隻数 680隻	延べ上架隻数 600隻	年間利用隻数は、自然災害からの船の避難対策等により年々増加してきており、概ね目標を達成した。(達成率 88%)	漁船の保守、修繕体制が強化され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 概ね目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H24	148	漁業作業軽労化機能整備	H24	H30	上架受入手数料 725千円	上架受入手数料 4,935千円	漁業生産活動の再開により、漁獲物の陸揚げが順調に行われ、目標を大きく上回った。 今後も、現状のまま維持するよう努める。 (達成率 681%)	漁業作業軽労化機能施設の整備により、漁獲物等の陸揚げ作業が軽減され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。

(別紙)

水産業共同利用施設復旧整備事業に係る事後評価報告書(岩手県)

計画内容			事業 完了 年度	評価 年度	評価の結果			
計画 年度	番号	施設名			成果目標		現状値の説明	都道府県の 評価結果
					目標値	現状値		
H24	150	作業保管施設	H24	H30	定置網修繕経費 6,000千円以下 (H21年実績6,700千円から 約1割削減)	定置網修繕経費 9,023千円	時化等の影響により、網の修繕費が増加し、目標まで削減できなかった。 (達成率0%)	施設の整備により、定置漁具の劣化防止、作業の効率化が図られ、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 時化等の影響で網の修繕費が増加し、目標を下回ったが、今後、修繕費の削減に向けて指導していく。
H24	156	水産物荷さばき施設	H24	H30	ホタテ集荷量 270トン	ホタテ集荷量 303トン	計画通り利用され、目標を上回った。(達成率 112%)	集荷機能が強化され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H24	157	水産物鮮度保持施設	H24	H30	5年間の総便益額 486,927,114円	5年間の総便益額 390,445,297円	平成27年からのサンマの不漁により、氷の消費が減少したが、概ね目標を達成した。 (達成率 80%)	施設の整備により、水産物の鮮度保持機能が強化され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 サンマの不漁により氷の消費量が減少し目標値を若干下回ったが、概ね目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H24	158	養殖施設	H24	H30	コンブ生産量 10トン	コンブ生産量 4トン	コンブの生育状況・生産単価の低迷により、生産量が減少し、目標を大きく下回った。 (達成率 40%)	施設の整備によりコンブ養殖業が再開し、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 環境変動等による生産量の減少で目標値を下回ったが、今後、生産量増加に向けて指導していく。
H24	159	養殖施設	H24	H30	ワカメ生産量 32トン	ワカメ生産量 54.8トン	計画通りワカメの生産を行い、水揚げも順調であったことから、目標を大きく上回った。 (達成率 171%)	施設の整備によりワカメ養殖業が再開し、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も有効活用されることが期待される。
H24	160	養殖施設	H24	H30	ワカメ水揚量 115トン ホタテ水揚量 260トン	ワカメ水揚量 194トン ホタテ水揚量 355トン	計画通りワカメやホタテの生産を行い、水揚げも順調であったことから、目標を大きく上回った。 ワカメ水揚量 (達成率 169%) ホタテ水揚量 (達成率 137%)	施設の整備により各種養殖業が再開し、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H24	161	養殖施設	H24	H30	ワカメ・ホヤ・ホタテ水揚量 3,047トン	ワカメ・ホヤ・ホタテ水揚量 3,253トン	計画通りワカメ、ホヤ、ホタテの生産を行い、水揚げも順調であったことから、目標を上回った。 (達成率 107%)	施設の整備により各種養殖業が再開し、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H24	162	養殖施設	H24	H30	養殖生産物水揚量 654トン	養殖生産物水揚量 439トン	台風等の影響により、カキ、ホタテの水揚量が減少し、目標を下回った。 (達成率 67%)	施設の整備により各種養殖業が再開し、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 台風被害により水揚量が減少し目標を下回ったことから、今後、水揚量増加に向けて指導していく。

(別紙)

水産業共同利用施設復旧整備事業に係る事後評価報告書(岩手県)

計画内容			事業 完了 年度	評価 年度	評価の結果			
計画 年度	番号	施設名			成果目標		現状値の説明	都道府県の 評価結果
					目標値	現状値		
H24	163	養殖施設	H24	H30	養殖生産物水揚量 1,131t	養殖生産物水揚量 640t	カキ・ホタテ種苗の斃死、台風・低気圧による脱落、ホヤの販売不振により水揚量が減少し、目標を下回った。 (達成率 57%)	施設の整備により各種養殖業が再開し、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 台風等被害やホヤの販売不振による水揚量の減少により目標を下回ったことから、今後、水揚量増加に向けて指導していく。
H24	165	海中飼育施設	H24	H30	サケ稚魚海中飼育 放流尾数 4,000千尾	サケ稚魚海中飼育 放流尾数 4,000千尾	計画どおりサケ稚魚の海中飼育放流を行い、目標を達成した。(達成率 100%)	施設の整備により、サケ放流体制が整い、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H24	166	海中飼育施設	H24	H30	サケ稚魚海中飼育 放流尾数 3,000千尾	サケ稚魚海中飼育 放流尾数 1,500千尾	親魚の回帰尾数が少なく、稚魚購入先ふ化場において種卵が不足したことにより、所要の稚魚数が確保できなかったことから、目標を下回った。(達成率 50%)	施設の整備により、サケ放流体制が整い、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 稚魚購入先において所要の稚魚数が確保できなかったものであり、やむを得ないものである。 事業実施主体に対し計画放流尾数の確保に向けて指導していく。
H24	167	海中飼育施設	H24	H30	サケ稚魚海中飼育 放流尾数 500千尾	サケ稚魚海中飼育 放流尾数 500千尾	計画どおりサケ稚魚の海中飼育放流を行い、目標を達成した。(達成率 100%)	施設の整備により、サケ放流体制が整い、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H24	168	海中飼育施設	H24	H30	サケ稚魚海中飼育 放流尾数 500千尾	サケ稚魚海中飼育 放流尾数 500千尾	計画どおりサケ稚魚の海中飼育放流を行い、目標を達成した。(達成率 100%)	施設の整備により、サケ放流体制が整い、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H24	169	海中飼育施設	H24	H30	サケ稚魚海中飼育 放流尾数 500千尾	サケ稚魚海中飼育 放流尾数 500千尾	計画どおりサケ稚魚の海中飼育放流を行い、目標を達成した。(達成率 100%)	施設の整備により、サケ放流体制が整い、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。
H24	170	海中飼育施設	H24	H30	サケ稚魚海中飼育 放流尾数 500千尾	サケ稚魚海中飼育 放流尾数 500千尾	計画どおりサケ稚魚の海中飼育放流を行い、目標を達成した。(達成率 100%)	施設の整備により、サケ放流体制が整い、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。

(別紙)

水産業共同利用施設復旧整備事業に係る事後評価報告書(岩手県)

計画内容			事業 完了 年度	評価 年度	評価の結果			
計画 年度	番号	施設名			成果目標		現状値の説明	都道府県の 評価結果
					目標値	現状値		
H24	171	海中飼育施設	H24	H30	サケ稚魚海中飼育 放流尾数 3,200千尾	サケ稚魚海中飼育 放流尾数 3,200千尾	計画どおりサケ稚魚の海中飼育放流を行 い、目標を達成した。(達成率 100%)	施設の整備により、サケ放流体制が整い、 地域の水産業の復興に大きく寄与してい る。 目標を達成しており、今後も施設が有効に 活用されることが期待される。
H24	172	アユ中間育成施設	H24	H30	種苗生産数 128千尾	種苗生産数 130千尾	種苗生産計画に従って生産し、目標を上 回った。 (達成率 102%)	アユ中間育成施設の整備によりアユの中間 育成・放流事業が再開し、地域の水産業の 復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に 活用されることが期待される。
H24	186	作業保管施設	H24	H30	ウニ生産額 2,089千円	ウニ生産額 3,400千円	ウニの採介藻漁業等の作業・保管に使用 し、目標を大きく上回った。 (達成率 163%)	施設の整備により、採介藻漁業等の作業効 率が向上し、地域の水産業の復興に大きく 寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に 活用されることが期待される。
H24	187	作業保管施設	H24	H30	ウニ生産額 3,934千円	ウニ生産額 3,336千円	時化により操業できない日があり、目標値を 若干下回ったが、計画通り施設が利用さ れ、概ね目標を達成した。 (達成率 85%)	施設の整備により、採介藻漁業等の作業効 率が向上し、地域の水産業の復興に大きく 寄与している。 概ね目標を達成しており、今後も施設が有 効に活用されることが期待される。
H24	188	作業保管施設	H24	H30	鮮魚水揚金額 2,442千円	鮮魚水揚金額 3,435千円	刺し網・かご・採介藻漁業等の漁具の保管 に使用し、目標を大きく上回った。 (達成率 141%)	施設の整備により、刺し網、かご、採介藻漁 業等の作業効率が向上し、地域の水産業 の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に 活用されることが期待される。
H24	189	漁業作業軽労化機能整備	H24	H30	利用回数 9,300回	利用回数 12,453回	計画通りの施設利用により目標を大きく上 回った。 (達成率 134%)	施設の整備により、漁業作業が軽労化さ れ、地域の水産業の復興に大きく寄与して いる。 目標を達成しており、今後も施設が有効に 活用されることが期待される。
H24	190	漁業作業軽労化機能整備	H24	H30	利用回数 3,400回	利用回数 4,740回	計画通りの施設利用により目標を大きく上 回った。 (達成率 139%)	施設の整備により、漁業作業が軽労化さ れ、地域の水産業の復興に大きく寄与して いる。 目標を達成しており、今後も施設が有効に 活用されることが期待される。
H24	192	作業保管施設	H24	H30	ワカメ・コンブ取扱数量 220トン	ワカメ・コンブ取扱数量 276トン	順調に生産量が回復し、目標を大きく上 回った。 (達成率 125%)	施設の整備により、ワカメ・コンブの集荷場 所が確保され、地域の水産業の復興に大き く寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に 活用されることが期待される。

(別紙)

水産業共同利用施設復旧整備事業に係る事後評価報告書(岩手県)

計画内容			事業 完了 年度	評価 年度	評価の結果			
計画 年度	番号	施設名			成果目標		現状値の説明	都道府県の 評価結果
					目標値	現状値		
H24	193	環境施設	H24	H30	年間利用量 両石漁港 17,280人・日 室浜漁港 12,015人・日 箱崎漁港 26,190人・日 白浜漁港 20,115人・日 仮宿漁港 4,320人・日	年間利用量 両石漁港 6,710人・日 室浜漁港 2,045人・日 箱崎漁港 9,320人・日 白浜漁港 6,523人・日 仮宿漁港 942人・日	各地地元帰還者が増加し、利用量が増加してきたものの、被災前より利用者は少なく、目標を大きく下回った。 両石 (達成率 39%) 室浜 (達成率 17%) 箱崎 (達成率 36%) 白浜 (達成率 32%) 仮宿 (達成率 22%) 全体平均 (達成率 29%)	便所の整備により漁業者の就労環境が向上し、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 被災前より利用者が減少しているため目標値を下回ったが、今後とも水産業、海業等の振興により、水産関係者や交流人口の増加に向けて取り組む。
H24	194	特認事業 (漁労等作業管理休養施設)	H24	H30	定置水揚量 1,529トン	定置水揚量 975トン	平成29年度は、サケ・サバの不漁により水揚量が伸びず、目標を下回った。 (達成率 64%)	施設の整備により、定置漁具の保管場所及び乗組員の休憩場所が確保され、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 近年の不漁傾向から目標値を下回ったが、今後、水揚量増加に向けて指導していく。
H24	199	養殖施設	H24	H30	ワカメ生産量 399.4トン ホタテ生産量 152.0トン	ワカメ生産量 229トン ホタテ生産量 216トン	ワカメ生産量については、休業中の漁業者がいるため、目標を下回った。 (達成率 57%) ホタテ生産量は順調に回復し、目標を大きく上回った。 (達成率 142%)	養殖施設の整備によりワカメやホタテ等養殖業が再開し地域の水産業の復興に大きく寄与している。 休業者がいることでワカメ生産量は目標値を下回ったが、今後、生産量増加に向けて指導していく。
H24	200	養殖施設	H24	H30	ワカメ生産量 27.0トン ホタテ生産量 18.9トン カキ生産量 15.4千個 ホヤ生産量 20トン	ワカメ生産量 29.9トン ホタテ生産量 19.3トン カキ生産量 25千個 ホヤ生産量 0トン	生産量はホヤを除き目標を上回っているが、生産物の死滅が近年増加傾向にある。今後、生産量・生産高の安定・向上に努めていく。 ワカメ (達成率 111%) ホタテ (達成率 102%) カキ (達成率 162%) ホヤ (達成率 0%) 全種平均 (達成率 94%)	養殖施設の整備により各種養殖業が再開し、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 多くの養殖種で目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。 また、目標値を下回っている養殖種については、生産量増大に向けて指導していく。
H24	201	養殖施設	H24	H30	ワカメ生産量 11トン ホタテ生産量 67トン カキ生産量 1,361千個 ホヤ生産量 100トン	ワカメ生産量 8.2トン ホタテ生産量 24.9トン カキ生産量 1,018千個 ホヤ生産量 20.5トン	麻痺性貝毒による出荷規制(ホタテ)、ノロウイルスによる出荷自粛(カキ)、韓国の輸入規制による需要の落ち込み(ホヤ)により生産量が伸びず、目標を大きく下回った。 ワカメ (達成率 75%) ホタテ (達成率 37%) カキ (達成率 75%) ホヤ (達成率 21%) 全種平均 (達成率 52%)	養殖施設の整備により各種養殖業が再開し、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 出荷規制等により生産量が減少し目標値を下回ったが、今後、生産量増加に向けて指導していく。
H24	224	作業保管施設	H24	H30	漁網の修繕作業日数 125日/年 漁具の保管日数 周年	漁網の修繕作業日数 125日/年 漁具の保管日数 周年	計画的な施設利用により目標を達成した。 (達成率 作業日数 100%、保管日数 100%)	施設の整備により、漁具の修繕及び保管環境が整い、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 目標を達成しており、今後も施設が有効に活用されることが期待される。